医療法人仁友会　北彩都病院

地域医療連携室　広報誌　　第 8 号　2016 年 1 月

地域医療連携室通信

≪清水港からみた富士山≫

◆◇◆　目次　◆◇◆

1P　・・・・・・・・　表紙・目次
2P　・・・・・・・・　2016 年 年頭のご挨拶
3P　・・・・・・・・　MRI 装置の紹介
4・5P　・・・・・　北彩都病院 ４階病棟紹介・お知らせ
6・7P　・・・・・　北彩都病院 ５階病棟紹介
8P　・・・・・・・・　第５回 慢性腎臓病患者についての勉強会報告

◆基本理念◆

患者とともに歩む医療を実践する。
最良の医療と環境を提供する。

◆基本方針◆

1) 患者さんの権利を尊重します。
2) 医療の質的向上に努め、信頼される病院を目指します。
3) 安全で安心に治療と療養が出来るように努めます。
4) 専門病院として、医療の発展を通して地域に貢献します。

2016年　年頭のご挨拶

医療法人仁友会北彩都病院
理事長　　石田裕則

新年明けましておめでとうございます。

今年の年始は、旭川市内で多少の雪は降ったものの、大雪に見舞われることもなく、穏やかに新しい年を迎えることができました。また、年末年始の診療につきましても大過なく安全に運営することができました。これもひとえに皆様の当院へのご理解とご協力の賜物であると深く感謝申し上げます。

さて、今年は申年になりますが、六十干支では33番目の丙申（ひのえさる）に当たります。暦学的に見て丙と申の組み合わせは、「勢いよく発展しつつも衰退の兆しがあることから、有頂天にならず気を引き締めることが大事な年」ということになるそうです。これを念頭に置き、職員一同、身を引き締め日々の診療にあたっていきたいと思います。

さて、皆様周知の事実ですが、我が国では急速な高齢化社会にともなう疾病構造の変化により、地域医療構想の策定が進められています。一方で、団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築も推進されています。厚生労働省の人口動態統計によると、今後も我が国の人口は大きく減少・高齢化予測となっており、旭川市においても同様の予測となっています。今から20年後には市民の約4割が65歳以上となる地域社会への対応は、医療機関・介護福祉施設の皆様に於かれましても検討されている事と思います。当院といたしましても、今後は医療のみならず、介護も含めたトータルサービスの提供が必要であると考えており、現在、ハード・ソフトの両面から種々の検討を行っている段階です。

日本の経済は様々な課題が山積しており、一部では景気動向が好調と言われながらも消費者の視点からは実感がないという声もあり、先行きは予断を許さない状況です。当院といたしましては、いかなる状況においても地域の皆様の健康を守る為に、質の高いサービスを提供し続けていく所存です。そこで、全職員が一丸となって取り組むべく、当院における年頭訓示の際に、今年のスローガン「和」を掲げました。これは、聖徳太子が制定した十七条憲法の条文にある言葉「和を以て貴しとなす」を由来としています。この言葉を、「人は自分と違う意見を持った相手には偏った頑なな見方をし、互いの対立を生む事になる。お互いが相手の話に耳を傾け、正しい事は正しい、間違っている事は間違っているという事を、誠意を持って和らいだ心で話し合いができれば、そこで得た合意はおのずから道理にかない、何でも成し遂げられる。」と解釈します。決して、意見の違う人と波風を立てないように妥協して、調和したふりをするという意味ではないということです。地域の医療機関・介護福祉施設の皆様との更なる連携を強化していくためには、まずは当院として組織の強化を図ることが必要であると考えます。日常業務や会議などの場における「和」を重んじた行動を通して、職員一人ひとりが成長するとともに、発展し続ける組織となることを目指していきます。

最後になりますが、今後も患者さんにとってより良い医療と環境を提供できるよう一層努めて参りますので、何卒ご協力くださいますようお願い申し上げます。

ＭＲＩ装置の紹介

診療技術部 放射線科主任　山代 浩二

当院にてＭＲＩ装置を 2015 年 12 月より導入致しました。

MRI とは、Magnetic Resonance Imaging の略で日本語では磁気共鳴断層撮影装置といい、人体内の水素原子核に電波を与え、そこから発生した電波を受信して画像化する装置です。磁石で出来た筒状の中に入り、電磁波と体内の水素原子を利用して体内の臓器や血管を撮影する事が出来ます。

SIEMENS 社製　MAGNETOM　Aera　1.5T

装置の外観は当院にもある CT 装置と似ていますが、原理は全く異なります。MRI 装置の特徴として X 線を用いないため被ばくがなく、無侵襲または低侵襲で検査が行えます。また脳動脈瘤、脳梗塞、脳出血といった脳血管障害や骨盤内臓器の検査に特に優れています。その他に造影剤を使わなくても大きな血管に関する情報を得ることが出来るため、腎機能の低下している患者さんや透析患者さんにも大変有用です。

しかしながら、検査を行う際に気をつけなければならない点がいくつかあります。MRI は強い磁場(磁気)を使用するので、腕時計やイヤリングなどの金属製品類は持ち込めません。また体内にペースメーカーや脳動脈瘤クリップ等の金属製品のある方（最近では MRI に対応している場合もありますのでご相談ください）、閉所恐怖症の方や妊娠している恐れのある方は検査が出来ない可能性があります。加えて検査時間が CT 検査と比べて長くかかってしまうため、じっとしている事の難しい患者さん（小児や意思疎通の難しい方）の場合、診断に有用な画像が得られない場合があります。

MRI 検査は X 線撮影や CT 検査では判別の難しかった疾患の特定や発見にとても有用です。この MRI 装置の導入により今まで以上に診療の幅を広げる事が出来る様になりました。もし何か気になる事があり検査を受けてみたい等ありましたら、一度主治医にご相談ください。

北彩都病院　『４階病棟紹介』

４階病棟看護師　　吉川 春美

当病棟のベッド数は５９床で主な入院疾患としては、慢性腎不全の保存期から、血液透析や腹膜透析などの腎代替療法開始の患者さんが大多数を占めています。

当院には血液浄化療法センターがあり、ベッド数は 115 床を保有しており、血液透析療法の基幹病院としての役割を担っています。そのため他施設から、腎不全の重症患者さんの紹介や、総合病院入院後に自宅退院までのリハビリテーション、また維持透析目的での転入院などを引き受け、リハビリテーション終了後には自宅退院または元の施設に戻っていただくようにしています。

当病棟は、看護師３２名、介護福祉士５名、看護助手９名が所属し、２交代制勤務を取っています。今までは、２つのチームナーシング制で行っていましたが。2015 年６月からは、プライマリー制も導入し、今まで以上に個別性のある看護を提供できるように取り組み始めました。また、チームではより良い看護・質の高い看護を提供できるように検討しています。

今年度は、腎臓病の知識を高めるため、月１回のペースで勉強会を開催しています。講師は、内科医師副院長の和田先生にお願いし、新人教育や経験看護師では再学習の意味も含めて行っています。

患者カンファレンスでは、毎週月曜日に、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・OT・ＰＴ・MSW など一同に会したカンファレンスを行い、最良のチーム医療を提供できるように検討を重ねて、早期退院や施設を含めた在宅退院に向け情報の共有を図っています。

また退院前には、在宅サービス調整に関わる、ケアマネージャーや福祉用具の業者、介護タクシー、デイケアスタッフ等が集まり、退院前カンファレンスを開いて、患者さん・家族の意向を取り入れ、安心して退院後の生活が送れるように連携して調整しています。

腎代替療法での腹膜透析に関しては、難しいとのイメージがあると思いますが、手技は個別での指導で独自の手技パンフレットを作成しており、覚えるのではなく、パンフレットを見ながらの操作となり、高齢者でも手技取得することが出来ます。

ＣＡＰＤでは、準備から終了まで約３０分程度で、１日４回行なう治療です。また、夜間寝ている間に治療できるＡＰＤという方法もあります。患者さんのライフスタイルに合わせて選択することが出来ます。自己管理困難な患者さんで施設入所を余儀なくされた場合は、施設スタッフや訪問看護師の方に出来るだけ不安なく対応できるように指導を行い、患者さんにスムーズに生活の場を提供できるように検討を重ねています。

今後も、入院中の看護は勿論ですが、退院後の生活が安心して送れるように、医療・看護・介護・福祉のシームレスな連携の輪を築いていきたいと思います。

お知らせ

その１　北彩都病院公式 facebook を開設しました。

2015 年 6 月 10 日に
『北彩都病院公式 facebook』を開設いたしました。

当院の様々な活動や医療に係る情報、採用情報などを提供しております。

皆さまのアクセスをお待ちしております。

いいね！

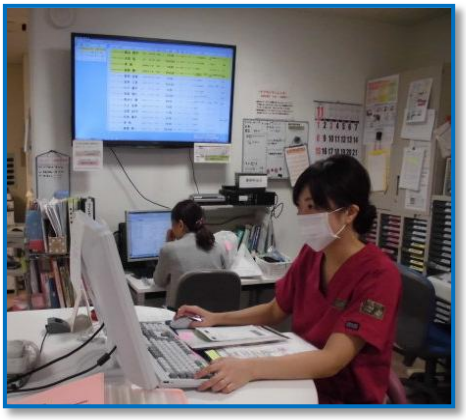
その２　北彩都病院が救急告示医療機関として認定されました。

医療法第３０条の４第１項に規定する医療計画に基づく救急医療告示医療機関の申請をし、２０１６年１月１日から『救急告示医療機関』として認定されました。

地域住民に安全・安心な医療を提供するため、微力ではありますが、救急医療の一端を担っていきたいと思っております。

北彩都病院　『５階病棟紹介』

５階病棟看護師長　　志田ゆかり



５階病棟は看護師、准看護師、看護助手、病棟クラーク、総勢３５名のスタッフが勤務しています。
主に泌尿器科、血管外科の症例を対象とし、多い日では１日に８名以上の入院患者を受け入れることもあります。毎日、数件の手術があり、入院即日臨時手術も珍しくなく、安全確実に術前準備、手術室入室ができるよう、３０分毎に更新される５２インチの液晶モニター画面で手術室入室時間を全員で確認、把握し業務を遂行しています。

最近の特徴として前立腺癌の精密検査（前立腺生検）を受ける患者が増加しています。
これは以前に比べ、前立腺癌が注目を浴びていることが要因のひとつと考えます。当院外来では「ワンコイン検診」という前立腺腫瘍マーカー（PSA）採血を実施しており、５００円で前立腺癌腫瘍マーカー採血を受けることができます。所要時間は１５分で結果報告までに４０分、急ぎの方には結果を後日郵送するなど、気軽に前立腺癌の検査ができるよう患者の立場に立った検査を推奨しています。また、一般的にも健康診断で前立腺腫瘍マーカー採血が実施されるようになったことも生検検査を受ける患者増加の理由に挙げられます。前立腺生検は直腸から穿刺した検体を病理検査するものです。入院期間の短期化を図るため、最短１泊２日で検査が行われることもあり、午前に入院していただき、午後から腰椎麻酔下で検査が行われ、翌日には退院できるため、社会的、経済的にも検査が受けやすい設定と言えます。また、前立腺癌が確定した時は様々な治療方法が選択されますが、中でも抗癌剤の開発は著しく、新薬剤の学習会に参加しながらその効果や副作用などの特徴を学び、安全な投与に努めており、日々、医療の進歩を実感しています。

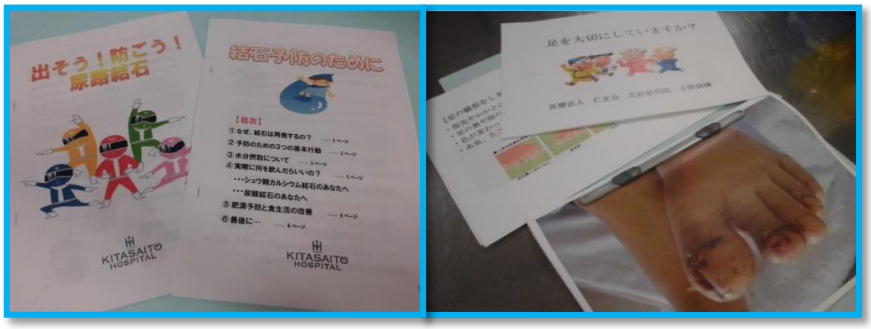
女性特有の疾患の中には POP(pelvic organ prolapse)骨盤臓器脱という、子宮、膀胱、直腸を支える靭帯などの支持組織の脆弱化により膣外に臓器が下垂する疾患があります。根治術は TVM（Tension free Vaginal Mesh）経膣メッシュ手術という、メッシュを使用しハンモック状にして下垂した臓器を支える手術で、2005 年に日本で導入された術式です。近年では LS(Laparoscopic Sacral Colpopexy）腹腔鏡下仙骨膣固定術を当院でも取り入れ、若い方でも退院後、性生活に影響の少ないメリットがあり、注目を浴びています。
このように泌尿器科の治療は男女とも特にプライバシーに関わる治療が多いことから、十分な配慮が必要となります。専門的領域で繊細な配慮を要する難しい科であり、だからこそ、患者の声に耳を傾け、共に治療をするという姿勢で患者に向き合うよう心がけています。

2015 年夏、日本尿路結石症学会が旭川で開催され、当院の山口聡副院長が学会会長の大任を果たされました。尿路結石症治療にご高名な医師が全国から集結し２日間に渡る学術集会が行われ、当病棟看護師も発表させていただきました。尿路結石症は日常生活習慣が大きく影響するため、日頃の患者指導にもパンフレットを活用しながら水分摂取を励行し再発予防に力を入れています。「水分を摂れば良いというものではなく、炭酸飲料、甘味飲料は控えて・・もしコーヒーを飲むならミルクを入れて・・」というように尿路結石予防に関しては、スタッフ全員が同レベルで患者指導ができるよう学習会を開き、栄養科などのコ・メディカルとも連携を図り、熱意をもって取り組んでいます。

外科は血管治療が主流です。旭川医科大学病院第一外科と連携を図り、ASO の血管内治療と術前後処置を行っています。病棟の取り組みは患者本人に定期的に撮影した創部写真とパンフレットをファイリングして渡し、セルフケアの重要性を働きかけています。その他 VA（Vascalar access）作製が多く、当院の血液透析患者に限らず、稚内、紋別、遠軽など道北圏内の医療機関からの紹介患者も多く入院され、最近では旭川市内の総合病院からの VA 作製依頼の症例も増えています。下肢静脈瘤は最短では１泊２日で手術治療を行っています。

最新の医療を提供することを目指して、日々学習を重ねていますが、まずは患者の気持ちに寄り添い、安全で安心な治療と療養環境を提供できるよう今後も精進していきたいと思います。

【パンフレット】



【学習会の様子】

第５回　慢性腎臓病患者についての勉強会

去る2015年11月19日１８時～１９時半において当病院６階ホールにて開催いたしました。５回目にあたる今回は130名と多数のご参加をいただきました。

今回は、当院副院長内科医師 和田篤志先生、当院血液浄化療法センター 藤島利行看護師による講演の他、「実際の透析患者の受診の流れについて」と題し、ＤＶＤの上映を行いました。

当日実施したアンケート結果より「透析についての知識がついた。原因、注意点が具体的に分かった。」「慢性腎臓病と周辺症状との関連性がわかってきた。」等のお言葉も頂き、参加された方には参考にしていただけたのではないか、と思われます。

当院地域医療連携室では、年に１回旭川市内・近郊の在宅関連施設スタッフ向けに慢性腎臓病とそのケアについてご理解を深めていただきたく、勉強会を行っています。次年度も秋頃に第６回勉強会を予定しておりますので、皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

講演『慢性腎臓病について』
北彩都病院 副院長 内科医師
和田 篤志先生

講演『訪問勉強会を通して施設職員との連携を深める』
北彩都病院 血液浄化療法センター
藤島 利行看護師

発行

医療法人仁友会 北彩都病院 地域医療連携室　広報誌「地域医療連携室通信」編集事務局
〒070-0030　旭川市宮下通９丁目２番１号
Tel　0166-26-6411(代表)　Fax 0166-26-6417(直通)

お気軽にお問い合わせください